

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600288		
法人名	社会福祉法人 稲泉会		
事業所名	グループホーム「けーせん」		
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72番地3		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 法人理念である「笑顔に勝る介護なし」の実現のため、事業計画に沿って入居者様の尊厳を重視したケアを実践している。</p> <p>2. 入居者様の健康管理のため、居宅療養管理指導として訪問診療と薬剤師と連携をしている。</p> <p>3. 認知症に対しての理解と、日頃行っている認知症ケアのを再度見直すため、年間施設内研修に認知症ケアについての勉強会を実施して実践している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平泉町にあって、東北自動車平泉インターチェンジからも近く、法人を同じくする特養ホームとデイサービス事業所が隣接している自然に囲まれた事業所で、開設18年目を迎えた。地域へ情報提供を行いながら、役場の支援を受け法人が発行する広報紙「きずな」を全戸配布し、また、地域の自治会や近くの障害者施設と防災の協定書を交わすなど、地域とのつながりも深い。利用者の思いや意向に沿った適切なケアサービスを提供するために、センター方式の活用により、個々の利用者の状態像の把握やニーズの掘り下げなどにより、日々のよりよいサービスの提供に取り組んでいる。また、職員のやりがい、働きがい、利用者の満足度にも繋がることから、職員の提案の具体化や研修機会の提供など、職員のモチベーションの維持・向上にも取り組んでいる。利用者は、職員の優しい寄り添い、見守り、声かけを得ながら、それぞれの生活リズムでのんびりと笑顔のある暮らしを続けている。「介護は人、人は心、心に笑顔」を基本に「笑顔に勝る介護なし」を実践している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに事業計画により定期的に会議などで確認しています。また、理念を共有することにより職員への意識付けを行っています。	開設当初に作成した理念について、毎日の申し送りや毎月の職員会議で確認しあうほかケアプランにも反映させ実践に努めている。職員は掲示した理念に目を通して心に刻んでいる。今後、利用者の現状に即した理念について見直し検討したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練、草刈り奉仕(青年会、民生委員)の活動が定着し、交流が深まっています。	日常的に地域の方から食材等の差入れがあるが、コロナ渦にあり、近隣の散策やドライブ時に挨拶を交わす程度で、地元の学生等も含め、地域との交流は控えている。それでも、町の文化祭や黄金祭りに利用者が作品を出展したり、町広報と併せホーム通信「うぐいす」も地域に回覧することで、事業所の理解に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、研修会や行事等により理解を深めてもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面での開催。意見書をもとにより良い環境の構築に向け実践しています。計画通りに運営推進会議が進めることができていないのが現状です。	ここ2年間は、殆どが書面開催となっているが、委員には事業所や利用者の状況を小まめに報告しながら、「意見要望伺い」を含めて資料を送っている。特に意見等はないが、コロナ感染対策の徹底や利用者の気分転換などについて心配の声が多く出されている。	運営推進会議構成メンバーに地域住民や有識者等も委嘱して、多方面からの情報提供やアイデアを得て、より円滑な事業所運営となるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の場を活用し、協力関係を維持している。七夕飾りの展示、敬老会、町の文化祭の参加の際には協力を得ています。	運営推進会議の開催案内を持参した際、報告や情報提供を行い、助言や指導も得ている。利用者の介護保険関係の提出書類は、直接持参して行うほか、日常的に電話やメール等でやり取りが出来る良好な関係となっている。生活保護の担当者や介護相談員の来訪もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを日頃のケアで実践している。行動だけではなく接遇面にも気を付けています。	身体拘束排除マニュアルを法人独自で作成し、日々のケアに活かしている。身体拘束適正化委員会は、年4回定例で開催している。県内の虐待通報事例等を共有するなど、虐待防止と併せた研修を計画的に行っている。今後、スピーチロックのグレーゾーンの判断等、事業所としての行動基準作りを予定している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	稲泉会の基本方針である「人権を尊重します」のもと身体拘束廃止委員会を活用し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に、稲泉会の基本方針である「人権を尊重します」のもとに理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話しやすい雰囲気のもと分かりやすい説明に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方については、日常の生活の随時対応しています。ご家族については、面会時または電話や書面で要望等を確認しています。	通院同行時等で来所された際、職員が利用者の状況を説明しながら、意見や要望などを伺うようにしている。広報を家族に送付し、要望などを寄せていただくきっかけになるよう、細やかに対応している。玄関に意見箱(目安箱)を設置しているが、利用される方はいない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティングの場以外でも要望があれば随時対応しています。	日々の申し送りや毎月の職員会議で利用者の変化やケアでの気づきなど、意見を汲み取るようにしている。備品や消耗品についての意見はいずれも具体化されている。職員は理事長と定期的に面談の機会があり、円滑なコミュニケーションが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規定については、働き方改革に沿った内容に随時改正し、職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本に職員のレベルを確認し、施設内外の研修を活用し職員の資質向上に努めています。		

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種会議、研修会を活用して情報交換を行い、その結果を職員間で共有しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りと傾聴の姿勢で要望の把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの対応の経験値から家族が思うであろう事項を確認して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先課題を導けるようアセスメントに力を入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の出来る事に着目し、役割を持ってもらうよう働きかけを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍であるため、家族参加の行事(誕生会・敬老会・忘年会等)は実施できていないが、広報誌などを使用し、関係維持に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係維持を図りながら新たな関係の構築してボランティア関係者(有償理髪ボランティア)との交流を図っています。	通院の帰りにスーパーに立ち寄り買い物を楽しむ方がいる。2カ月に1回町内の理容店が来所しているほか、訪問診療で町内医療機関から月4回医師、看護師が来所し、利用者の馴染みになっている。自宅付近へのドライブなどにも出かけて、馴染みの場所や風景を確認する機会を設けている。	

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の人間関係を尊重し、職員は入居者全体の生活空間を意識した支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供等の支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、いつでもどこでも職員と話しやすい雰囲気を作り十分なコミュニケーションが図れるよう努め言葉に表せない意向や訴えを表情や態度からくみ取れご本人の望みに添える努力を行っています。	殆どの利用者が言葉での意思表示が可能で、事業所の生活にも馴染んで利用者間の会話も楽しんでいる。本年度の重点実施項目である「パーソナルケアの推進」に向けて、センター方式を活用しながら利用者一人ひとりの思いや、それぞれの状態像を掘り下げ、ケアプランに反映させていくこととしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントを基に基本情報や生活情報を把握しながら、現状の暮らしについて本人のペースを大切にしながらその人らしく過ごせるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを把握しその人らしい生活、自立した生活が送れるよう支援している。現状や心身の状態に添った可能性を見出し実践できることで張り合いや喜びを感じて頂けるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を基本にアセスメントを含め職員全員でモニタリング、カンファレンスを行いチームで作る利用者本位の介護計画を作成している。介護計画期間に応じて見直しを行い、また、状態変化した場合はその都度検討見直しを行い、現状に即した計画を作成し、家族報告同意を得ながら進めています。	居室担当を中心に、日々の生活場面や面会、電話などで本人、家族から思いや意見を聴きとりながら、ケアマネジャーが在宅ケアの視点で原案を作成し、ケア会議で全職員で共有し利用者の実態に即したプランとしている。家族等からは電話や書面で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で本人が発する言動表現を事実に基づいてケース記録に記入し状態の変化や気づき、対応を記録し、毎日のミーティングで話し合い情報を共有しケアの見直しを行っています。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム「けーせん」

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望や季節の催しに合わせながら、入居者の要望に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍で地域の方と触れ合うことが少ないが、地域資源(近隣住民・民生委員・ボランティア(有償含む)・行政)と連携し行事等を実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療(回診・往診)を行っていただきます。また町内の薬局と連携を取り利用者の情報提供を行っている。また入居者が希望する医療機関で健康管理を行っています。	本年から、毎月4回、地域の医療機関の訪問診療を導入している。この医療機関は24時間の診療にも対応していることから、利用者の通院、待ち合わせの負担軽減に繋がっている。訪問診療以外の診療科を希望する利用者の受診については職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、食事、摂取量、排泄状況等的に記録し、異常が見られた場合は速やかに医療と連携を図ることとしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供書により医療機関に必要な情報を提供しています。入院中は、定期的に状況を確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を尊重して対応しています。また、認知症の症状を常に確認し、進行した場合は主治医、かかりつけ医へ相談しています。	看取り指針は作成していないが、重度化が進行してきた際には、医師の指導を得ながら家族等と話し合いを重ね、次の生活場を紹介、提案するよう、細やかに対応している。最近、看取りは無いが、職員は看取りに関する知識の共有とスキルアップに向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備しました。定期的に急変時対応の研修を行うことにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間帯の訓練を実施し、防災意識を高めています。地域とは、防災協定を結び訓練にも参加してもらう予定です。	定例の火災想定避難訓練(夜間想定含む)を年2回実施している。現在は、コロナ渦で地域住民参加の訓練は実施していない。ハザードマップ上では、水害地域になっていないが、事業所独自で隣接の特養を避難所に想定して準備している。隣接の特養や障害者施設とも防災協定を結び、いざという時に備えており、備蓄等もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本方針「人権を尊重します」のもと、職員間で対応について確認を行っています。	利用者一人一人の訴え要望に寄り添い、傾聴の姿勢をとっている。入浴、排泄の場面では異性による介助は、その都度了解のもとで支援している。ユーチューブを活用して昔親しんでいた遊びや歌などを一緒に楽しんでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の声を否定せず、傾聴の姿勢で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思で選択し、決定できるよう選択可能な対応を提案して本人の選択を尊重してできる限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪(毎月)の機会をもうけ、身だしなみへの関心が薄れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を摺って頂いたり、みそ汁の味付けをして頂いたり、焼きそば等ホットプレートを活用し職員と一緒に作っている。また日々の食器拭きやテーブル拭きをお願いし、役割分担を担ってもらっている。	利用者は、本人の楽しみ、意欲の下で包丁や調理器具を使って野菜の皮むきや調理、盛り付けや下膳食器拭きなどを行っている。外出の機会が減ってきているため、出前や行事での食事を工夫している。おやつは、職員と利用者で一緒に作って楽しく食べている。	

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、以前に栄養士からのアドバイスのもと献立を作成しており、摂取量については本人の嗜好・体調に応じて摂取してもらえよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っていただいています。自力で困難な方には介助しています。また夕食後に義歯洗浄を行い清潔を保持しています。また自力で義歯が保管が難しい入居者は義歯が紛失しないように保管しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失敗しても責めることなく入居者の思いに対応しています。	利用者の殆どは、何らかの介護用品を着けているが、職員の声かけを受けるなどして、トイレで排泄している。失敗した方には、職員が優しい声かけをしながら、落ち込むことが無いよう、細心の注意を払っている。夜間のセンサー利用は2名ほどいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課として、体操を実施している。水分については、嗜好にあったのを提供し、食事以外で1000cc~1500ccを目標にして支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認し入浴日を設けている。浴槽の出入りが困難な方には、リフトを利用して湯船につきり、安全・快適に入浴して頂いています。	一般の個浴を利用し、原則週に2回の入浴としている。嫌いな方には、無理強いせず、時間や日にちを変更し、清拭や足浴などで対応している。希望により、入浴剤なども利用して、楽しみや心地よさにつなげている。ゆっくりと職員と語りあっている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを尊重しつつ、夜間安眠できるよう落ち着いた生活環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースにファイルし、誤薬を予防するため透明なボックスを使用し1日ごとに用意しています。薬の効果・服薬回数を把握している。薬の副作用についても確認しています。何かあれば主治医やかかりつけ医、薬剤師に相談しています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員から声をかけ、手伝って頂いたり、入居者が率先して掃除や食器拭き、洗濯物干しをされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるが、日々の生活では野外での散歩や気分転換を図っています。お花見、ドライブ等の支援を行っています。	日常的にはホーム周辺の散策や近隣のドライブなどを行っている。季節に応じて桜や紫陽花、紅葉などを観に中尊寺や近隣の観光地などにドライブ外出している。家族との外出の機会も少なくなっており、外泊も含めた外出の機会を、今後検討したいとしている。	外出の機会が減ってきていることから、コロナの感染状況を見ながら、家族の理解、協力をい得た外出・外泊支援について、検討されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院時の帰り道など、本人と買い物をもうけ、金銭感覚の低下防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があればいつでも電話することができる事を伝えている。手紙については希望があれば代筆する事を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、ホールには季節の花を生けたり、季節感のある作品を共同で作成し、飾っています。	テーブルやソファを中心にテレビが置かれ、利用者は、それぞれ好きな場所に腰をかけ、一人や複数でのんびり時間を過ごしている。利用者が共同で作成した切り絵、貼り絵を掲示し、採光に配慮した明るい空間のなか、食堂、畳敷きの和室もある快適な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ホールにはテーブル席の他には和室があり、自由に利用する事ができます。入居者の関係性に応じ入居者に了承を得てから席替えを行っています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人の馴染みの物については持ち込み制限して いない。立ち上がり困難な利用者には電動ベッ トを用意し、安全に立ち上がれるよう配慮してい ます。	介護用ベッドや洗面台、クローゼットが備えられ、 部屋は、エアコンで温度等が調整されている。利 用者はテレビやラジオ、時計や家族写真、手造り 作品などを持ち込んで、好きな場所に置いたり掲 げたりしている。部屋の入り口には名札もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安全な導線へ配慮し、廊下、トイレ、浴 槽には本人が利用しやすい位置に手すりを設置 している。避難口には手すり・スロープを設置し、 屋外には非常サイレンを設置し、災害時安全対 策にも配慮しています。		